

問 過疎法の新法制定を

答 新法制定を期待している



公明党代表 岡崎 久和

問 過疎法の支援策で、旧波賀町、旧千種町、市の具体的な事業施策の実態は。

市長 旧波賀町と旧千種町が過疎地域であり、産業生活環境基盤整備に取り組んできた。17年度に後期5カ年の過疎地域自立促進計画を策定し、生活インフラ整備を中心に事業が行われてきた。ソフト事業の拡大が検討されており、全国過疎地域自立促進連盟等が指定要件や財源確保、対象事業の拡大要望を行っている。

問 過疎債は市の借金であるが、市の発行額と今後の発行計画、返済計画を。

市長 約47億7千万円。道路事業25億円、診療所の施設整備に2億円、簡易水道に15億円、下水道に5億円とな

っている。返済計画は、7割が普通交付税で算入される。償還期限は12年、据え置き3年となっている。今後の整備計画はソフトの拡大も含めて計画を立て有効に活用したい。

問 ハード事業に限定されている過疎債を、地域医療の充実や学校教育、集落維持を目的とした人材確保等、ソフト事業の活用を可能にするため、基金が創設できる弾力的な制度にするよう国に働きかけるべきである。

市長 新法制定でソフト事業に対する取組みも含めた新しい法律になるのではないかと期待している。

問 医療費の助成は小学6年生までを中学3年生までに引き上げるべきである。

市長 県の医療費助成制度が5年間の期限限定で創設される。市の医療費助成事業に加えて、この制度の助成も新たに加えて実施したい。

今回の台風で養父穴栗線等甚大な被害が発生し同じことを繰り返している。過去において三方や染河内地区を陸の孤島にしないために迂回路の開設を何回も提案してきた。能栖線の林道接続を行い、三方と染河内地区の迂回路にして、住民の安心・安全を確保すべきである。また、今回通勤等に大きく役割を果たした「主要地方道加美穴栗線」の拡幅と坂の辻峠トンネルの早期着工を国、県に強く要望されたい。

問 風で養父穴栗線等甚大な被害が発生し同じことを繰り返している。過去において三方や染河内地区を陸の孤島にしないために迂回路の開設を何回も提案してきた。能栖線の林道接続を行い、三方と染河内地区の迂回路にして、住民の安心・安全を確保すべきである。また、今回通勤等に大きく役割を果たした「主要地方道加美穴栗線」の拡幅と坂の辻峠トンネルの早期着工を国、県に強く要望されたい。

市長 地域の生活道路、地域間交流や非常時の緊急輸送道路として重要な路線と位置付け、機会あることに整備の要望をしている。県の財政状況も厳しい中で改良時期についてはまだ見通しがたっていない。今後も粘り強く要望する。能栖線は市道に認定、開設するには、既設林道部分2070mの市道規格に合った改良と2000mの開設工事が必要となる。災害時等の緊急連絡道として位置づけることは重要なことと認識している。



加美穴栗線・・・大型車同士のすれ違い